

今こそ学び直したい！

# マーケットの基本&投資信託アドバイス

適正な投資判断をサポートする情報提供のノウハウ

**市場の知識不足が要因！  
現場で聞かれるマズイ運用アドバイス**

**新** 型コロナの影響で、市場は不透明感が増している。各国中央銀行の金融緩和で株価は高水準を維持しているものの、今後の市場動向は、投資信託の購入を検討している、あるいは購入済のお客様にとって関心が高いテーマだ。金融機関の担当者は、市場が不透明だからこそ、お

**知識不足ゆえの  
安易な発言が目立つ**

ところが営業店の現場では「適切」とは言えないアドバイスがみられるのが実態だ。実際、金融機関の支店長



を続けていては、お客様が満足いくアドバイスや情報提供を行うことはできない。

**市場の基礎を身につけ  
適切なアドバイスを**

投資信託を販売する際は、個別ファンドの概要や過去の値動き等を理解しておくことはもちろん必要だ。ただそれ以上に「市場」について理解しておきたい。景気・金利・為替の基本的な知識や、その連動性などを踏まえたアドバイスを行うことが望ましい。

こうした知識は一朝一夕に身につくものではない。日ごころから新聞やニュースに目を通したり、大きなイベントがあったときにそれがどう市場に影響を与えたのか意識して情報を集めたりすることで、市場への感度を高めることができる。

各ファンドの「運用レポート」やファンドマネージャー

のコメントも情報の宝庫だ。コメントではファンドの基準価額に影響する市場の動向や今後の見通しについて書かれている。こうした意見を見れば、お客様から商品の動向について尋ねられたときの回答に役立つ。

「知識を積み重ねていけば、市場の状況を俯瞰して見られるようになります。同じ長期投資を勧めるのでも、市場の知識を知っているのと知らないのとはアドバイスが質が異なってくるはずですよ（地銀本部行員）」

本特集では、市場の基本的な知識を解説するとともに、運用会社が用意している資料の見方や、市場の動きを踏まえた具体的な運用アドバイスを紹介する。

市場への感度や提案スキルを高め、日々の営業活動のレベルアップにつなげてほしい。

や、預かり資産業務の指導担当者からは「長期・分散投資を重視するあまり、『基準価額が下がったときでも、長期保有しておけば安心です』といった、型どおりのアドバイスしかできない」「『東京五輪が開催されれば景気が良くなるので株価は上がりますよ』という誤ったアドバイスをやっている」「『売れている商品に乗り換えましょう』という単純な提案しかできない」といった声がある。特に

若手の預かり資産担当者にみられる傾向であるという。こうした危険なアドバイスをしてしまう理由は、担当者に「市場の知識」が不足しているからにほかならない。「景気や株価、金利、為替に関する基礎知識はもちろん、各市場の関係性などを理解しないまま資産運用担当者に任命され、投資信託を販売している担当者は少なくありません（地銀支店長）」